令和７年度　研究紀要　第 246 号

調査課題研究

学年・学級経営について

～アンケート結果の報告と考察～

胆振教育研究所

巻頭言

授業改革を支える
学年・学級経営の力

胆振教育研究所長　佐　藤　　淳
（伊達市立東小学校長）

昨年度から本研究所では、「一人一人の子供を主語にする授業づくり」を研究テーマにして、理論研究を進めています。胆振管内の小中学校においても「教師が教える授業」から「児童生徒が自ら学ぶ授業」への転換を目指し、授業改革が着実に進められています。その中で、改めて浮かび上がってきたのが、学年・学級経営の重要性です。

そこで今年度、本研究所では、各学校の教員それぞれの立場から、どのような意識や課題をもって学年・学級経営にあたっているのかを調査し、その分析結果を本紀要にまとめました。調査結果の中で、学年・学級経営の成果と課題において、「人とのつながり」が表裏一体となっていることが明らかになっています。子供や保護者との関係が良好であると感じている教員は、経営が順調と捉える一方、関係づくりに困難を感じている場合には、それがそのまま課題となっていることがうかがえました。

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を推進するためには、子供たちが安心して意見を述べ、互いを尊重しながら学び合える環境が必要です。日常的によさを認め合う関係づくりや規範意識の醸成といった、目に見えにくい営みの積み重ねこそが、学びの質を左右します。

しかし、今日の学校教育は、以前にも増して多様で複雑な課題を抱えるようになってきています。いじめや不登校への対応、特別な配慮を要する児童への個に応じた支援など、きめ細かな対応が必要です。さらに、保護者の価値観や要望も多様化する中で、信頼関係の構築も欠かせません。こうした対応を学級担任一人で抱えることは、もはや難しい時代になっています。だからこそ、これからは、個々の担任の力量のみに委ねるのではなく、学年・学校全体で子供の実態や指導方針を共有し、協働して支えていく体制が重要なのです。指導の方向性がそろい、一貫した関わりが積み重ねられてこそ、子供にとって安心で安全な環境が生まれるのではないでしょうか。

ぜひ先生方には、この調査結果をご覧いただき、先生方にとって自校の実態を見つめ直す一助となり、学年・学級経営のさらなる充実へとつながることを願っております。

結びに、本調査にご協力いただきました先生方に心より感謝申し上げ、発刊の挨拶といたします。

もくじ

◆巻頭言 …… 胆振教育研究所長　佐　藤　　淳

◆調査の概要 …… 1

◆「学年・学級経営について」アンケート調査 …… 3

◆調査を通して見えてきたこと・現状と課題 …… 16

◆参考文献 …… 17

◆令和７年度　所員一覧 …… 17

◆あとがき …… 18

調査の概要

■調査の趣旨及び目的

中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が明記されており、従来の一斉指導からの授業観の転換が必要とされています。

令和７年９月に示された次期学習指導要領の論点整理の中でも「主体的・対話的で深い学び」の実装は、現行学習指導要領が目指している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通じた資質・能力の育成について、一層の具現化・深化を図るものであると示されています。

これらの授業改善を図る上で、学年・学級経営の充実がより重要となってきており、現在、本研究所で理論研究を進めている「一人一人の子供を主語にする授業づくり」とも関連するテーマでもあります。

胆振教育研究所では、個別最適な学びや協働的な学びを行う上で心理的安全性の確保など、学習の土台となる学年・学級経営に関わる幅広い視点が重要だと考えました。そこで、実態調査を行い、結果を周知したり、考察を加えたりすることで、管内の状況や課題を明らかにし、若い先生を中心とした学校での実践につなげることを目的に、本調査を行いました。

■調査内容と回答者

胆振管内（苫小牧市、室蘭市を除く）のすべての小・中学校にご協力いただき、７～９月に調査を実施いたしました。

小学校 195 名、中学校 126 名、計 321 名に回答していただき、担当別の回答者数は管理職 51 名、担任 184 名、副担任 34 名、担任外 52 名となりました。

■回答方法について

調査は Google Forms を用いてオンラインで回答いただきました。記述の回答については、一部編集して掲載しております。なお、構成については、アンケート実施時と質問項目の順番を入れ替えています。

■質問項目

Q1.学年・学級経営において大切にしている（していた）ことを選んでください。（複数選択可）

学習指導　生徒指導　児童・生徒との関係づくり　児童・生徒同士の関係づくり
学習環境の整備　保護者との連携　多様性への対応　教職員間の連携　地域との連携　その他

Q2-1.あなたの今までの学年・学級経営においてうまくいっていると思うことを選んでください。（複数選択可）

学習指導　生徒指導　児童・生徒との関係づくり　児童・生徒同士の関係づくり
学習環境の整備　保護者との連携　多様性への対応　教職員間の連携　地域との連携　その他

Q2-2.なぜうまくいっていると感じているかお答えください。（自由記述）

Q3. あなたの今までの学年・学級経営においてうまくいっていないと思うことを選んでください。（複数選択可）

学習指導　生徒指導　児童・生徒との関係づくり　児童・生徒同士の関係づくり
学習環境の整備　保護者との連携　多様性への対応　教職員間の連携　地域との連携　その他

Q4-1. あなたはどのような子どもを育てたいですか？（自由記述）

Q4-2. また、あなたは「どのような子どもを育てたいか」ということを日常の指導でどの程度意識しています（いました）か。

ほぼ毎日意識している　たまに意識している　あまり意識していない　全く意識していない

Q4-3. あなたは、「どのような子どもを育てたいか」ということを主にどのような場面で意識しています（いました）か？（複数選択可）

行事　学習指導　生徒指導　その他

Q5-1. 今までに児童・生徒が自分の意見や感情を安心して表現できる、心理的に安全な学年・学級がどの程度つくれていると感じますか？

つくれている　ある程度つくれている　あまりつくれていない　つくれていない

Q5-2. 心理的に安全な学年・学級づくりのために意識的に取り組んでいる（いた）ことをお答えください。（自由記述）

Q6. 今までに「ほっと」や「Q-U」などの客観的データを学年・学級経営に活用していますか？

よく活用している　たまに活用している　あまり活用していない　全く活用していない

Q7-1. 今までに ICT を学年・学級経営（特別活動や集団づくり等）に活用していますか？

よく活用している　たまに活用している　あまり活用していない　全く活用していない

Q7-2. 活用している場合、どのように活用しているのか実践例をお答えください。（自由記述）

Q8-1. あなたの学校では、学年・学級経営案を活用していますか？

活用している　活用していない　学年・学級経営案を作成していない

Q8-2. 活用している場合、どのように 交流・検証・改善していますか？（自由記述）

Q9-1. （担任外の先生のみお答えください）現在、学年・学級経営にどのくらい関わっていますか？

とても関わっている　たまに関わっている　あまり関わっていない　ほとんど関わっていない

Q9-2. （関わっていると回答した方のみお答えください）具体的にどのように関わっていますか。（自由記述）

Q10. 今までに保護者と連携する際に意識していることや工夫していることをお答えください。（自由記述）

Q11. 今までに学年・学級経営において困っていることがありましたらお答えください。（自由記述）

Q12. 今後、学年・学級経営において研修したいことをお答えください。（自由記述）

「学年・学級経営について」アンケート調査

〇あなたはどのような子どもを育てたいですか？（自由記述）

①**【自立・自律・主体性のある子】**　40.4%
・自立できる子　・ゴールを見据えて主体的に行動する子
・自分で生きていける力をもつ子　・自己選択、自己決定できる子
②**【思いやり・協調性のある子】**　29.9%
・思いやりがあり、人を傷つけない子　・人を愛し、人から愛される子
・合意形成を大切にできる子　・友達と協力して生きていく力のある子
・集団の中でうまくコミュニケーションできる子
③**【粘り強さのある子】**12.9%
・目標や夢に向かって努力を継続できる子　・生活力のある子
※その他
・心身の健康な子　・自己肯定感のある子　・幸せに生きられる子
・柔軟に考え、行動できる子　・健全な社会性や規範意識をもった子

多くの先生が「自立・自律・主体性のある子」と「思いやり・協調性のある子」を重視しており、両者をバランスよく育てることを意識していることがうかがえます。
さらに、「自己肯定感」や「規範意識」の育成を意識している回答も見られました。

〇また、あなたは「どのような子どもを育てたいか」ということを日常の指導でどの程度意識しています（いました）か。

〇あなたは、「どのような子どもを育てたいか」ということを主にどのような場面で意識しています（いました）か？（複数選択可）

生徒指導や学習指導において意識しているという回答が約８割、行事で意識していると回答した方が約７割でした。その他の回答としては、日常生活全般や委員会活動、休み時間と答えている方もいました。

〇学年・学級経営において大切にしている（していた）ことを選んでください。（複数選択可）

年代別（数値は%）

20代		30代		40代		50代以上	
学習指導	60.4	児童･生徒との関係づくり	85.7	児童･生徒との関係づくり	79.5	児童･生徒との関係づくり	74.3
教職員間の連携	60.4	学習指導	78.6	学習指導	75.6	学習指導	72.9
生徒指導	54.2	生徒指導	73.2	教職員間の連携	75.6	生徒指導	71.4
児童･生徒との関係づくり	47.9	児童･生徒同士の関係づくり	64.3	生徒指導	71.8	保護者との連携	70.0

20 代では、学習指導と教職員間の連携が上位にある一方で、30 代以上は児童・生徒との関係づくりが上位にきています。また、50 代以上では保護者との連携がそれ以外の世代に比べて上位にあり、より大切にしていることが分かります。

〇あなたの今までの学年・学級経営においてうまくいっていると思うことを選んでください。（複数選択可）

年代別（数値は%）

小学校20代		小学校30代		小学校40代		小学校50代以上	
児童･生徒との関係づくり	67.6	児童･生徒との関係づくり	66.7	児童･生徒との関係づくり	34.7	児童･生徒との関係づくり	50.0
教職員間の連携	50.0	教職員間の連携	50.0	教職員間の連携	28.6	教職員間の連携	47.3
学習環境の整備	20.6	保護者との連携	43.3	学習指導	20.4	保護者との連携	41.9
保護者との連携	14.7	学習環境の整備	36.7	生徒指導	20.4	生徒指導	39.2

中学校20代		中学校30代		中学校40代		中学校50代以上	
児童･生徒との関係づくり	100	児童･生徒との関係づくり	65.4	児童･生徒との関係づくり	86.2	児童･生徒との関係づくり	60.4
教職員間の連携	85.7	教職員間の連携	53.8	教職員間の連携	82.8	学習指導	45.8
学習指導	85.7	生徒指導	42.3	生徒指導	79.3	保護者との連携	45.8
生徒指導	71.4	保護者との連携	30.8	学習指導	79.3	生徒指導	39.6

年代別の結果を見ると小学校・中学校ともに、「児童・生徒との関係づくり」「教職員間の連携」の割合が高く、児童生徒や教職員との関わりがうまくいっていると実感している方が多いことがうかがえます。

また、50 代以上では、「保護者との連携」の割合が上位にきており、保護者との関わりがうまくいっているという実感が得られていることが分かりました。

〇なぜうまくいっていると感じているかお答えください。（自由記述）

小学校

①児童との関係づくり

・児童の心に寄り添う　・褒める、励ますなど日々の言葉かけを意識している

・一人一人の理解、児童の日常的な様子の把握　・子どもファーストを意識

・教師と児童との良好な関係　・多様性への対応

②保護者との連携

・保護者とのコミュニケーション、協力、連携　・地域との連携

・保護者の理解を得ながら進める　・保護者が相談しやすい関係を築く

③教職員間の連携

・教職員同士の連携、情報交換　・先輩の知恵を借りる　・チームで取り組んでいる

④学習環境の整備

・学習環境や学習規律が整っている　・学級の雰囲気が落ち着く

・学級通信の発行頻度　・教材研究　・授業の工夫

※その他

・児童が主体的に活動し、自信がついている

・児童の笑顔、意欲が見られる　・授業内容の理解度

・学級経営に熱心に取り組める　・目標をもって進められている

・仕事が楽しい

中学校

①生徒との関係づくり

・生徒が気軽に相談できる　・密なコミュニケーション　・生徒の表情　　・卒業時の充実感

②教職員間の連携

・教職員同士の連携、情報共有　・報連相の意識　・チームで取り組んでいる

③学習環境の整備

・授業づくりの工夫　・落ち着いた学級環境

④生徒指導

・生徒が納得する指導　・大きな問題がない　・指導トラブルが少ない　・問題の未然防止

⑤保護者・地域との連携

・地域との連携　・保護者同士のつながりが強い　・保護者とこまめな連絡

※その他

・教材研究に時間をかけられる　・なぜうまくいっているのか分からない

・客観的な評価（学校評価、アンケート、テスト）の結果向上　・目標と評価の一体化

小学校・中学校ともに、児童生徒との関わりや保護者や教職員間の連携により成功を実感しているという回答が多く見られました。

〇あなたの今までの学年・学級経営においてうまくいっていないと思うことを選んでください。
（複数選択可）

年代別（数値は%）

小学校20代		小学校30代		小学校40代		小学校50代以上	
学習指導	52.9	学習指導	43.3	多様性への対応	42.9	学習指導	51.4
生徒指導	41.2	生徒指導	36.7	学習指導	40.8	多様性への対応	36.5
保護者との連携	32.4	地域との連携	36.7	教職員間の連携	24.5	地域との連携	31.1
児童・生徒同士の関係づくり	26.5	多様性への対応	23.3	保護者との連携	22.4	生徒指導	24.3

中学校20代		中学校30代		中学校40代		中学校50代以上	
生徒指導	64.3	地域との連携	42.3	学習指導	44.8	多様性への対応	41.7
学習指導	50.0	児童・生徒同士の関係づくり	30.8	地域との連携	37.9	学習指導	33.3
児童・生徒同士の関係づくり	42.9	学習指導	26.9	児童・生徒との関係づくり	31.0	地域との連携	27.1
児童・生徒との関係づくり	42.9	児童・生徒との関係づくり	26.9	多様性への対応	27.6	教職員間の連携	27.1

小学校では、学習指導や生徒指導という回答が多く、小学校 40 代以上では多様性への対応という回答も得られています。また、中学校では、地域との連携という回答が多く見られます。中学校 20 代の先生の中には、P5 の回答を見ることで生徒との関係づくりについてうまくいっている面とうまくいっていない面の両面があるということが分かります。

年代別では、小中学校ともに 20 代の先生が学習指導・生徒指導がうまくいっていないと実感している回答が多くなっています。

〇今までに児童・生徒が自分の意見や感情を安心して表現できる、心理的に安全な学年・学級がどの程度つくれていると感じますか？

〇心理的に安全な学年・学級づくりのために意識的に取り組んでいる（いた）ことをお答えください。（自由記述）

心理的に安全な学年・学級が**つくれている**と回答された方が意識的に取り組んでいる（いた）こと

・スクールカーストに敏感であることと、いじめを含む諸問題の「芽」を摘む指導の心がけ、またどんな生徒にも「腫れ物に触るような」指導をしないこと
・生徒、保護者、教員間の信頼関係づくり　・笑顔でいる
・みんなで楽しむ場面を大切にする
・心理的安全性が重要である理由として、アメリカの心理学者のマズローの「欲求の段階説」があげられ、安全欲求の他の欲求との兼ね合い、関連性も含めて常に意識して取り組んでいる
・まずは安心安全が確保されるために規律の徹底
・児童主体で、学級のために必要だと思うことを学習指導、当番活動、係活動に盛り込み、責任感と他者理解を自然と学べる環境づくりに努めているから　・児童の声に耳を傾けること
・児童が間違えた意見を発表したときに、「恥ずかしいことじゃないよ」「だめなことじゃないよ」という声かけをするようにしている　・児童が相談しやすいような環境づくり
・児童が教師に話しかけやすいように穏やかな態度で教室に居ること
・毎日、朝や休み時間などに会話をすること
・困った時や失敗した時にも言いやすいように、不機嫌な態度や忙しそうな様子を見せないこと
・認める、共感する、寄り添う関係づくり　・子どもの意見をしっかり聞く
・一人一人の存在を大切にする　・生徒が安心できるような、言葉かけ、できない事を責めない
・マイナスな感情を持つ事に後ろめたさを感じる事なく、それを認め、対処していく方法を身につけて行けるように、日々具体例を交え、話したり活動させたりしている
・まず「心理的に安全」という言葉が、「何も指摘し合わない」という誤解を４月の段階で解く
・学校は社会を小さくしたものなので、互いに集団生活をしていくうえで気になることは学生のうちに指摘をしあうことで、それが人間社会で強く生きていく土台になると伝えている。

心理的に安全な学年・学級が**ある程度つくれている**と回答された方が意識的に取り組んでいる（いた）こと

・一人一人の存在や行動、結果を認める　・1日1回は全員と必ず会話する
・失敗やわからないことを歓迎し、間違いを笑わず表現したことを認めて褒め合う風土をつくる
・個人の良い面を学級通信や共有の場で積極的に紹介し、自己肯定感を高める
・いじめ（行為）や他者を蔑む言動は絶対に許さないと宣言し、毅然とした態度で即座に対応する
・正しいことが普通である状態を保ち、ルールを徹底することで全員が守られる環境をつくる
・「心理的安全＝何でも許される」ではなく、互いに高め合うための指摘ができる強く生きる土台を教える
・係活動や当番活動など、児童が主体的に動き、個々の特性が輝く活躍の場を意図的に設定する
・ペア、グループ活動を取り入れ、多様な考え方や違いを受け入れる協働性を育む
・教室環境を整え、時にはリラックスできる空間（ぬいぐるみ、タオル等の活用）も大切にする
・常に笑顔で穏やかな態度を保ち、怒りや多忙感で生徒を威圧しない（マルトリートメントの防止）
・教師自身が失敗を恐れず挑戦する姿や自己開示を行うことで生徒が相談しやすいモデルとなる
・定期的な面談、休み時間の確保、つぶやきの拾い上げから生徒の SOS や小さな変化を見逃さない
・教員間、学年団での密な情報共有を徹底し、役割分担をしながらチームで生徒を見守る
・保護者との良好な関係を築き、家庭と足並みをそろえて子どもの成長を支援する
・学級通信等を通じて、教師の思いや生徒の良さを発信し、学校・家庭・地域の信頼を深める

心理的に安全な学年・学級が**あまりつくれていない**と回答された方が意識的に取り組んでいる（いた）こと

・児童の生活の観察や表情の変化の読み取りを意識している　・常に子どもに寄り添うこと
・授業での発表では、発表者に対して必ず反応を返すこと、いじめは絶対に許さないことを伝える
・定期的な学年集会の実施、教育相談の実施　・日常の道徳の授業や生活指導で講話
・子どもが自分から話しかけやすい雰囲気をつくる、我慢や無理はしなくてよいという声かけ
・交換ノートで個別対応、放課後の時間に残っている子どもとの対話　・言葉遣いの指導
・皆が全員の前で発言できる、認め合う　・授業日は、学級の生徒と必ず1回は会話する
・お互いに認め合える雰囲気づくり　・子どもに対して尊敬と信頼をもって接すること
・健康相談で身体の症状について記入されていることがあれば、声掛けを行うようにしている
・生徒からのシグナルに割と敏感に反応すること　・子どもたちが一緒に遊ぶ機会を作っている
・自分からあいさつをする、担任がいつでも笑顔でいること　・間違いを間違いとしてとらえない
・落ち着かないときには別室でのクールダウンを進める　・どの子どもにも公平に接すること
・学級のルールがぶれないこと、良いこと悪いことをはっきりさせること
・児童の目線に立ち、出てきた問題はなるべく早期に対応する、児童が納得できる指導を心がける
・近すぎない距離感を保ちつつ自分の気持ちを伝えてもよいと思える環境づくりを心掛けている
・ソーシャルスキルトレーニングや小さな自己開示の場面をたくさんつくること
・生徒とのコミュニケーション　・集団での楽しい活動　・子どもの発言を大切にすること
・担任が教室を離れ、子供だけの時間を作らないように意識している

○今までに「ほっと」や「Q-U」などの客観的データを学年・学級経営に活用していますか？

客観的データを学年・学級経営に活用していないと答えた方が約半数いることから調査をしてもデータが活かされていない実態があることがうかがえます。

○今までに ICT を学年・学級経営（特別活動や集団づくり等）に活用していますか？

約４割の方が ICT を学年・学級経営（特別活動や集団づくり等）に活用していないと回答しています。どのように効果的に活用していくかが課題と言えそうです。

○ICT を活用している場合、どのように活用しているのか実践例をお答えください。

①意見交換・話合い・アンケートに活用

・Google フォームやスプレッドシートで意見集約、投票、アンケート
・話合い活動（学級会・学活・道徳）での考えの可視化や交流
・スクールタクトや付箋アプリを用いたリアルタイム意見共有

②学期ごとの振り返り・目標設定・評価

・学級、個人目標の作成と振り返りに活用　・子ども同士でよいところを伝え合う活動
・フォームやスプレッドシートで振り返りを記録し見える化

③情報共有・連絡ツールとして活用

・毎日の連絡事項を Classroom に掲載　・欠席者にクラスの活動内容を共有
・Google スライドで一日の予定を可視化

④協働的・探究的な学習活動での活用

・ロイロノートで自由進度学習を実施　・Canva を活用してプレゼン資料作成

⑤子供同士の交流・関係づくり

・友達同士の関わり、「いいね」でリアクション　・児童間のアイスブレイクに ICT を活用

⑥個別最適な学びの支援・ドリル利用

・スマイルネクストで反復練習　・コグトレや自立活動の振り返りに活用

⑦授業支援・可視化・教材提示

・板書代わりに TV へ意見を投影　・教科書や資料映像の提示　・リアルタイムで考えを全体共有

⑧校務・行事運営・進路指導での活用

・クロームブックで委員会活動を進行　・行事後にアンケートで振り返り

・進路指導の資料づくりに活用

○あなたの学校では、学年・学級経営案を活用していますか。

学年・学級経営案を活用していない、作成していないという回答が約３割でした。

○活用している場合、どのように 交流・検証・改善していますか？

①学期・年度単位の定期的な振り返り

・個人の振り返りシートや KPT を使用　・年度末に振り返り、改善点を次年度へ引き継ぐ

・学期ごとに計画と反省、自己評価を行い研修等で交流

②全体交流・検証

・年度始めに方針、目標の交流と共有　・年度末に成果と課題を検証し、次年度計画に反映

③PDCA サイクルを意識した運用

・計画（Plan）→ 実行（Do）→ 検証（Check）→ 改善（Act）を循環

・学期ごとの振り返り→次学期計画での実践が多い

④職員間での交流・情報共有　職員会議、研修、学年部会、ブロック研など

・日常の会話や学年打合せで適宜修正をしている　・他クラスの実践を研修で交流し参考にする

⑤書面・デジタルツールでの共有

・紙面、掲示、スプレッドシートなどを用いて共有　・KPT シートで成果、課題を記録し共有

⑥アンケートや児童・保護者の声を活用

・アンケート結果をスライドにまとめて分析　・教育相談や面談のタイミングで検証、改善

○（担任外の先生のみお答えください）現在、学年・学級経営にどのくらい関わっていますか。

○（関わっていると回答した方のみお答えください）具体的にどのように関わっていますか。

①情報共有・連携・助言

・日常的な生徒の様子や指導上の問題点を担任と共有すること

・担任が把握しきれない生徒の側面や指導の効果、課題について、多角的な視点を提供する

②授業・学習指導サポート

・教科担任、TT（ティーム・ティーチング）、支援学級補助、専科としての授業実施

・教科専門性や特別支援の専門性を活かし、担任の負担を軽減しつつ、学習の個別最適化を実現する中核的な役割を担っている

③日常的な関わり・見守り

・休み時間、登下校、朝の挨拶など、授業以外の生活場面での積極的な声掛けや観察

・担任から離れた場面での児童、生徒の小さな変化を見取り、SOS を早期発見している

小学校では、学習指導の専門性不足と多忙さを、担任外が TT や専科として補っており、中学校では、問題への組織的対応と専門性の活用が中心となっている回答が多く見られました。生徒指導上の問題行動や不登校など、複雑な課題に対して、担任外が学年全体で指導するなど組織的に対応しています。

○今までに保護者と連携する際に意識していることや工夫していることをお答えください。

小学校

①傾聴・受容・共感の姿勢（45 件）

・保護者の話をよく聞く、否定せず受け止める　・気持ちに寄り添う、困り感を理解する

②こまめな連絡・迅速な対応（40 件）

・電話、連絡帳、学級通信を通じて日々連絡　・欠席やトラブルは即連絡

・小さなことでもこまめに伝える

③子供の良い面・成長を伝える（35 件）

・問題だけでなく頑張ったことを伝える　・「サンドイッチ型」で良いこと＋課題をセットで伝える

・ほめ電話、笑顔での声かけ

④信頼関係を築く工夫（20 件）

・話しやすい雰囲気づくり　・笑顔で接する、柔らかい口調

・敬語や声のトーンを工夫して誠意を伝える

⑤共通理解・同じ方向を向く姿勢（15 件）

・保護者の要望を聞き、スタンスを合わせる　・子どもの未来を一緒に考える姿勢を示す

・共通の目標を持ち、協力して子どもを育てる

〇その他

・学級通信や保健だより、メッセージカードなどで情報発信

・学校の考えや子どもの姿を具体的に伝える　・誤解を防ぐため、児童より先に正確な事実を伝える

・懇談や早退時の送迎での声かけ　・対面で直接話す場面を大切にする

中学校

①傾聴・受容・共感の姿勢（50 件）

・保護者の話を最後まで聴く、否定しない　・思いや立場を尊重する

・共感を示し気持ちをくみ取る

・学校の都合を押し付けず、受容的態度を大切にする

②こまめな連絡・迅速な対応（40 件）

・小さなことでも連絡、早めに共有　・電話、連絡帳、通信などを使い分ける

・時間帯を考慮し、即時に対応　・問題が大きくなりそうな時は直接会って伝える

③子供の良い面・成長を伝える（35 件）

・ほめることや努力を必ず伝える　・良いことと課題をセットで伝える

・問題報告ばかりにならないよう、良い行動も電話で伝える

④信頼関係を築く工夫（25 件）

・雑談や日常的な交流で安心感をもってもらう　・一緒に子どもを育てる仲間という姿勢をもつ

・チーム感、協力関係を意識して伝える

⑤言葉遣い・伝え方の工夫（20 件）

・低姿勢で物腰柔らかく、丁寧な言葉遣い　・言葉を選びつつ、必要なことは伝える

・結論から端的に話す、事実と考えを分けて伝える

〇その他

・保護者と同じ方向を向き、協力して子どもを支える

・主役は生徒、保護者と教員は伴走者という立場を共有

・保護者の要望も考慮しながら落としどころを探る　・学級通信や懇談で定期的に発信

・双方向のやり取りを意識、家庭での様子も聞く　・啓蒙的な資料や学校方針をわかりやすく伝える

・電話だけでなく、対面で伝えることを大事にする　・玄関先や家庭訪問で直接会って話す

・難しい内容ほど顔を合わせて伝える

「傾聴・共感」「こまめで迅速な連絡」「子供の良さを伝える」の３つを保護者対応の際に多くの先生が意識していることが分かりました。特に、「良いことも必ず伝える」「日常的に連絡する」ことで、信頼関係を築きやすくしているという回答が多く見られました。

〇今までに学年・学級経営において困っていることがありましたらお答えください。

小学校

①保護者対応（26 件）

・理不尽なクレームや過度な要求への対応　・保護者と共通理解が得られない
・電話連絡や面談がうまくいかない　・保護者同士の関係づくりの難しさ
・子どもの誤情報を鵜呑みにする保護者への対応　・保護者となかなか連絡が取れない

②特別支援・多様な児童への対応（23 件）

・特性のある児童やグレーゾーン児童への支援
・愛着に課題のある児童、感情コントロールが難しい児童の対応
・通常学級と特別支援学級の連携不足　・学力差、生活力の差が大きい児童への対応

③児童間トラブル・人間関係（19 件）

・児童同士のトラブルやいじめ　・高学年での人間関係の固定化・悪循環
・単学級で友人関係の改善が難しい　・喧嘩や嘘が絶えない子への対応

④学習指導（17 件）

・学習規律が整わず授業が成立しにくい　・学力差が大きく、個別指導が行き届かない
・努力しても学力が伸びない子への支援　・基礎基本ができていない児童への対応

⑤教員間連携（14 件）

・学年経営で足並みが揃わない　・考え方の違う同僚との連携の難しさ
・支援学級担任との連携不足　・意識の共有や統一が徹底されない

⑥学級経営（10 件）

・学級が落ち着かず授業が進められない　・学級の立て直しの難しさ
・明るく朗らかな学級経営をどう築くか　・学年担任が少ない場合の孤立感
・複数学年を抱える学級運営の煩雑さ

〇その他

・不登校児が出たときに対応できない　・遅刻や欠席が多い子の家庭との連携困難
・忙しすぎる、業務過多　・フォローやリスクヘッジに追われる　・自己の指導力不足
・行事が多く学級経営に集中できない　・アンガーマネジメント　・情報発信不足

中学校

①保護者対応　（36 件）

・理不尽なクレーム　・過度な要求　・子どもの言葉を鵜呑みにする保護者
・連絡が取れない保護者　・保護者同士の関係づくり

②教員間連携　（26 件）

・学年主任と担任の情報共有不足、足並みが揃わない
・チーム担任制の導入、担任と副担任との負担差　・前任からの引継ぎ不足
・情報共有スピードの遅さ　・伝達がうまくいかない

③特別支援・多様な児童への対応　（13 件）

・支援学級との連携　・グレーゾーン児童の対応　・発達特性や愛着課題生徒への支援
・通常学級での不適応対応

④学級経営（８件）

・学級を立て直す方法　・集団づくり　・指導のメリハリの付け方　・単学級での悩み

⑤学習指導（６件）

・授業中の集中欠如（私語、後ろ向き）　・学力差への対応

〇その他

・時間外連絡　・業務過多　・行事が重なって学級に集中できない　・いじめ　・連絡が取れない

・固定化した人間関係　・整理整頓の定着が難しい　・ネットトラブル　・不登校児対応

「保護者対応」が最も多く、現場の負担感につながっています。以下「特別支援・多様な児童への対応」「児童間トラブル」が続き、児童の多様化に学校が追いつきにくい状況となっています。

また、中学校では、「保護者対応」に続き、「教員間連携」不足が課題となっています。

〇今後、学年・学級経営において、研修したいことをお答えください。

①特別支援教育・インクルーシブ教育に関する対応（33 件）

・発達障害や特別な教育的ニーズへの支援方法　・特別支援学級の学級経営の実践例

・通常学級での特別支援対象生徒への対応　・インクルーシブ教育の理念と実践、課題

②保護者対応（25 件）

・難しい保護者への対応方法　・保護者対応に苦慮している実情の共有　・保護者啓蒙活動の方法

・生徒との関係づくりが伝わらないときの工夫　・学校対保護者ではなく個人として向き合う方策

③集団づくり・学級経営の具体例（21 件）

・集団力を高める方法、集団力向上に向けた具体的実践　・短学活や掲示物の工夫

・少人数学級の運営　・良い学級の条件とは？　・成功例、失敗例の共有　・実態交流、事例研修

④教員同士・チーム学校での連携（18 件）

・副担任、チーム担任制の役割　・担任と担任外のスムーズな連携　・チーム学校としての学級経営

⑤生徒指導（声かけ・トラブル対応・関係づくり）（16 件）

・問題行動への適切な声かけ、対応方法　・SNS トラブル対応　・子どもの心に響く指導

・生徒理解を深める方策　・人間関係づくり（演劇的手法の活用など）

⑥学習意欲・主体性の向上（６件）

・スマホ等で集中できない生徒への指導　・家庭学習の意欲づけ　・子どもの力を伸ばす指導

・生徒主体の活動　・進路指導の在り方　・自律した生徒を育てる段階的手立て

〇その他

・ICT 活用　・STEAM 教育　・心理的安全性　・危機管理

特別支援教育・インクルーシブ教育と保護者対応についての研修ニーズが高いです。また、集団づくり・学級経営における事例研修など実践的な学びを求める回答が多かったです。その他、教職員同士の連携や生徒指導に関する研修を望む声もありました。

調査を通して見えてきたこと・現状と課題

今回の調査から先生方が「自立・自律・主体性のある子」と「思いやり・協調性のある子」をバランスよく育てるために学年・学級経営で最も大切にされていることは、学習指導や児童・生徒との関係づくりであることが分かりました。若年層では、児童・生徒との関係づくりよりも学習指導や教職員間の連携といったサポート体制を重視している傾向にあります。良好な学年・学級経営は、個人の資質に頼るものではなく、組織的なバックアップ体制に支えられたものであるという意識が読み取れます。

【学年・学級経営についての現状と課題】

学年・学級経営でうまくいっていると実感されていることは、校種・年代を問わず児童・生徒との関係づくりや教職員間の連携といった人とのつながりにあります。「この学年・学級は、自分の意見や弱みを出しても大丈夫だ」という心理的安全性によって支えられていることを示しています。

一方、うまくいっていないと実感されていることは、20 代では、学習指導・生徒指導、40 代以上は、地域・教職員間の連携でした。生徒指導提要にもあるように学習指導と生徒指導を相互に関連付けながら、どうすれば両者の充実を図ることができるのか探ることが重要となります。教職員間の連携がうまくいっていないと感じているのは、互いの指導観などを建設的に議論する場が不足し、同僚に助けを求めることが難しいと感じるなど組織における心理的安全性がまだ十分ではないことが原因と考えられます。

今後の課題としては、次の点が挙げられます。

・学年団など教職員同士の連携不足が見られる。
・先生方が困っていることでは、保護者対応が最も多く、先生方の負担感につながっている。
・特別支援や多様な子供への対応など、子供の多様化に学校が追いついていない状況となっている。
・ICT や「ほっと」や「Q-U」などの客観的データを学年・学級経営（特別活動や集団づくり等）に効果的に活用されていない。

【今後に向けて】

学年・学級経営の質をさらに向上させるためには、学校全体の心理的安全性の確保が不可欠です。担任・担任外も含めた学校全体で課題を共有し、教職員間の連携をより質の高いものにしていくことで複雑化する学校課題に対して組織的に対応し、解決へ向かっていくことができるのではないでしょうか。

（P8 に心理的に安全な学級がつくれていると回答された方が具体的に実践されていること、P12～13 に保護者と連携する際に意識していることや工夫していることを記載していますので、ご覧ください。）

参考文献

・文部科学省ホームページ「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）
・文部科学省ホームページ「生徒指導提要」
・NITS　独立行政法人教職員支援機構ホームページ「学級目標・学級生活づくり」
・北海道教育大学教職大学院　佐々木由佳、杉本任士、小田将之
「学級担任が抱える学級経営上の困難性について」
・大前　暁政「心理的安全性と学級経営」東洋館出版社
・若松　俊介「学級づくりからはじめる自由進度学習」　学陽書房
・群馬県総合教育センター「学級経営における大切なこと」
・逗子市公式サイト「授業・学級経営についての自己チェックリスト」
・埼玉県教育委員会「学級経営リーフレット」

令和7年度　所員一覧

役職名	氏名	所属学校	職名
所長	佐藤　淳	伊達市立東小学校	校長
副所長	横山　康彦	登別市立登別中学校	校長
事務局長	髙橋　賢治	登別市立鷲別小学校	主幹教諭
事務局次長	黒川　知恵	白老町立白老小学校	主幹教諭
所員	中村　章人	登別市立富岸小学校	教諭
所員	永井　久	登別市立緑陽中学校	主幹教諭
所員	中島　正義	伊達市立伊達中学校	主幹教諭
所員	藤井　健	伊達市立伊達小学校	主幹教諭
所員	福山　元気	登別市立登別中学校	教諭
所員	西島　勇武	伊達市立東小学校	教諭
事務職員	水留　恵美子	胆振教育研究所	

あとがき

「学級経営と学習指導は車の両輪」これは、私が初任の頃に先輩教員から授かった言葉です。当時、私は、目の前の授業をどうしようか考えることに精一杯でこの言葉の意味をよく理解していなかったことを思い出しました。

今日、学校現場は、大きな転機を迎えています。ICT の日常的な活用や個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実など児童生徒が主体となる学びが進む中で、私たち教師側にも従来の指導観からの転換が求められています。

本調査では、「どのような子供を育てたいか」という教育の根幹に関わる設問から心理的安全性の構築、そして ICT やデータの活用といった実践に至るまで、管理職、担任、担任外の先生方からのリアルな声をお寄せいただきました。

皆様の回答から子供たち、そして私たち教師自身が、失敗を恐れずに挑戦できる場をいかに創るかという心理的安全性の確保が一つのキーワードとなっていることが分かりました。

不登校児童生徒の増加や多様なニーズをもつ児童生徒への対応、教員の多忙化など複雑化する教育課題は、もはや一人の教師が抱え込める状況ではなくなってきています。ここで大切になるのが、「チーム学校」の視点です。管理職、担任、担任外の教職員が一つのチームとして連携し、互いに安心して意見を出し合えることや失敗を恐れずに学び合える心理的安全性が保障された組織であることにより、学校全体での課題解決力が向上します。

子供たちは「意見や発言が受け止めてもらえる」「間違えても笑われない」という安心感があってこそ、個別最適な学びや協働的な学びの実現が可能になります。教師自身も心理的な安全性を実感し、ウェルビーイングが保たれて初めて、子供たちの伴走者として寛容に向き合うことができます。これが、学級経営と学習指導の両輪を回す源であると私は感じています。

ご多用のところ、アンケート調査にご協力いただきました胆振管内の各小中学校の教職員の皆様に心より感謝申し上げます。本研究紀要が、各学校の現場で実践的に活用され、今後の教育活動の質的向上に資することを切に願っております。

胆振教育研究所　所員　　藤　井　　健

令和７年度　研究紀要　第 246 号

調査課題研究

学年・学級経営について

発行年月日　令和８年３月２日
発　　行　胆振教育研究所
代 表 者　所長　佐藤　淳
印　　刷　㈲ 村 上 印 刷